

令和4年度 長崎大学教育学部附属特別支援学校 学校評価結果【学校経営】について

○4つの評価項目については、保護者、職員ともに 3.6 以上と高い評価で、昨年度の評価とほぼ同じ結果でした。
○本校の存在意義を示すためには、本校が地域、或いは県内にとって必要とされていることを示す必要があり、それは、結果的に本校への入学希望者がどれだけいるかということに表れてきます。本校の教育に対する考え方を、機会があるごとに外部へ発信していきます。

【組織運営】について ※職員のみ回答 ○5つの評価項目については 3.0 以上でした。○「学校は、目的に応じた委員会を設置し、適切に運営している」については、昨年度より 0.2 ポイント下がっていました。不要な委員会はないので、設定されているから開催するのではなく、協議すべき内容を精選し、必要度に応じて柔軟な開催をするようにしていきます。○「学校は、計画的に定時退庁日を設定している」については、昨年度に1ポイント上昇し、今年度更に 0.3 ポイント上昇しました。各部の部主事が中心となって働きかけてきた結果が、確実に表れてきていると思われま

す。
【危機管理】について○4つの評価項目については、保護者の評価が 3.7 以上、職員の評価は 3.6 以上とどちらも高い評価でした。○「学校は、事故やヒヤリハットが起きた際には情報を共有し、再発防止に努めている」については、昨年度の反省を踏まえ、安全対策を強化してきた結果として、保護者で 0.3 ポイント、職員で 0.4 ポイントと評価が上がっていると思われま

す。
【教育活動】について○15の評価項目については、保護者の評価が 3.6 以上、職員の評価は 2.9 以上でした。ただ 2.9 の評価は、「学校は、キャリア教育全体計画を意識しながら日々の指導を行っている」という項目に関しただけであり、これを除くと全て 3.4 以上の評価となります。また、「学校は、進路実現に向けて現場実習や進路に関する学習を適切に行っている」や「学校は、進路実現ができるように自己選択・自己決定を促しながら進路指導を行っている」については、どちらも 3.8 と昨年度より 0.2 ポイント上昇し高い評価でした。つまり、子供たちの将来を見越した日々の進路に関する学習は十分に行えているが、それとキャリア教育全体計画がリンクしていないということだと思われま

す。このような点を今後の第 25 次研究で、新たな研究として進路指導部と連携しながら改善を図っていきます。○「学校は、前年度の反省を生かして、学校行事の時期や回数、内容などを設定している」については、職員の評価が昨年度より 0.3 ポイント上昇して 3.7 という評価でした。ここ数年のコロナ禍においては、いかに安全面に配慮して無理のない範囲で実施するかを心掛けてきました。今後の状況がどうなるかは分かりませんが、確実にコロナ禍以前の状態に戻りつつあると感じています。○「学校は、共生社会の実現に向けて、交流及び共同学習を計画し、学校間交流や居住地校交流を適切に実施している」については、昨年度より保護者の評価が 0.5 ポイント、職員の評価が 0.6 ポイント上がっています。昨年度まで直接交流が実施できていなかった附属学校との交流が今年度から再開されたことが大きな原因だと思われま

す。今年度は地域の小学校との交流がまだ再開できていないので、次年度実施に向けて相手校に働きかけていきたいと考えています。

【教育環境】について○4つの評価項目については、保護者の評価が 3.7 以上、職員の評価は 3.4 以上と、保護者、職員どちらの評価も昨年度より 0.1~0.2 ポイント上昇していました。○「学校は、教育活動に必要な施設・設備を整備している」については、職員の評価が昨年度より 0.2 ポイント上昇していました。コロナ禍に伴う予

算で様々な設備や教材が整えられており、教育活動を行う際にとっても有効に活用されています。○「学校は、施設・設備の安全点検を定期的実施し、問題点があれば早急に対応している」については、保護者・職員とも 3.7 と高い評価でした。定期的な安全点検による問題箇所や、雨漏りなどが起こった場合も大学の施設部により速やかに対応してもらっています。

【専門性の向上】について ※職員のみ回答 ○7つの評価項目については、全て昨年度より下がったものはなく、同程度以上でした。○「学校は、福祉制度などに関する研修を実施して職員の理解を深めている」については、昨年度より 0.5 ポイント上昇し 3.4 という評価でした。進路指導部が「進路だより」を通して、保護者だけでなく職員にも情報発信してくれています。今後は研究的な側面からも学校全体として意識が高められると思っています。○「学校は、教員として必要な研修（現職教育）を計画的に実施している」については、昨年度より 0.4 ポイント上昇し 3.4 でした。今年度から新たに、大学の特別支援教育コースの先生方のそれぞれの専門分野についての講話をしてもらう取組を始めました。それにより、我々の知識が高まるとともに、大学との連携がより身近になり、更に深まるものと感じています。○「学校は、授業研究などを通して授業力の向上に努めている」については、昨年度より 0.6 ポイント上昇し 3.6 という評価でした。授業研究でお互いに建設的な意見を出し合うことで、より授業力が高まり、本校職員の実践力の強みが更に増していると考えます。

【開かれた学校】について ○7つの評価項目（保護者は6つの評価項目）については、保護者の評価が 3.7 以上、職員の評価は 3.3 以上でした。○「学校は、大学と連携し、附属学校園の特別支援教育に関して、センターとしての役割を果たしている」については（職員のみ回答）、昨年度より 0.1 ポイント下がっていました。これは、コーディネーターが担っている対外的な支援についての評価であるため、なかなか実感として掴めない面があるからだと思われます。しかし実際はのべ18名の観察、4名の保護者面談、3回の委員会出席など、大学と連携した対応を行っています。○「学校は、ホームページや学校だよりを通して、学校の様子を保護者や地域に発信している」については、保護者で 0.3 ポイント、職員では 0.6 ポイント上昇していました。昨年度ホームページの更新がなかなかできていなかったという反省を受けて、今年度は各部が積極的かつ計画的に取り組んだ結果だと思われます。また、学校だよりについては、一斉メールで配信するようにしたため、保護者も職員も見やすくなったと考えています。